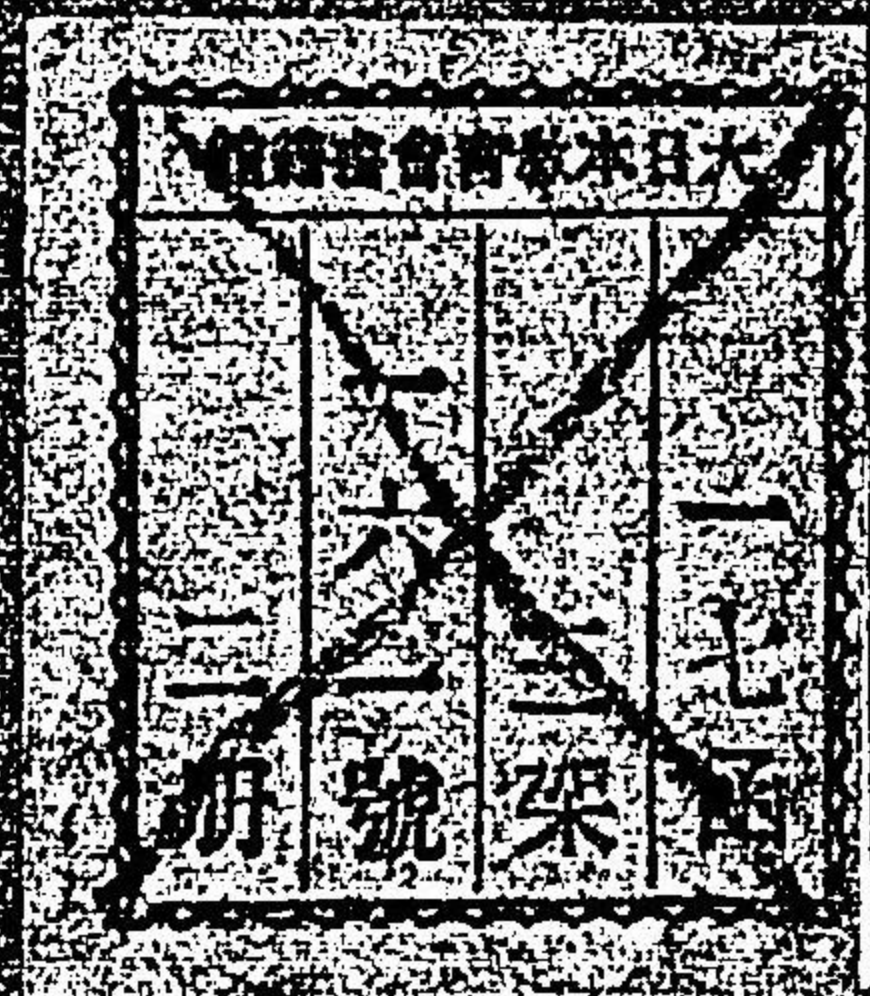


特56

267



本教神理圖解 上

014613-001-8

特56-267

本教神理圖解

佐野 經彦/著

1冊(上23丁)

M16

ABB-1041

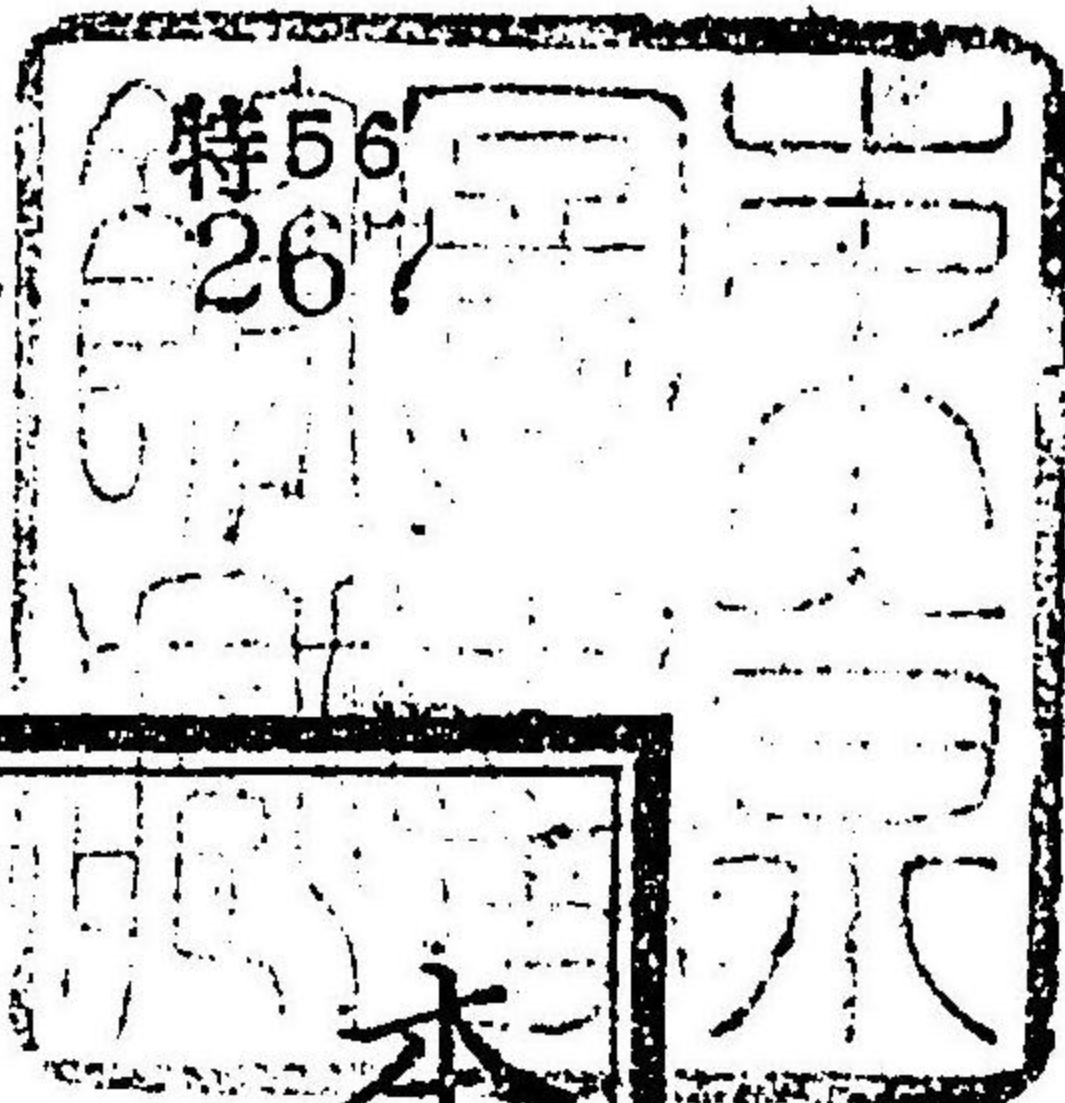


佐野經彦著

本教神理圖解

本教神理教會藏版

此書之理
 神理之理
 無不備
 言
 此書之理
 神理之理
 無不備
 言



本教神理圖解上

豐前國御民

佐野經彦謹著

目爾見延農天津神倭
 坐目爾見瀨亭人能誠
 廻道誌留辨勢年

一六合之間無不氣而盈唯斯氣之主
率以為神

世ありと顯るゝ事の千事百事と限おし
といへとも其言の起原をたゝひとつかり
て天津神理をかくるまおしされはとも其理
と云言の本言をたゝせはコトワカレとい
ふ言よりて則言を別けたまへると云ふこ
とより起りたることあり抑るの神といふ
ものを何物おしと何おしをしまりたるると

其起原を考ふるは古事記に天地初發之時於
高天原成神名天之御中主神と志るさ出た
る此大神よりて天地開闢の初發より
顯出たまひ其天地開闢の元氣を總持給ひ
たるおよりイキモチと御號を稱奉り其イ
キモチと云ふ御名のイををふきモチを約
めカミとハ稱へまつまあり扱此神の功
徳おより天地四方の成定りたるを後お窺
ひ奉るお名もふく意もあき大虚空の御中

大元オホモトの氣イキを持モチて御座オハシ在マシたるより是を
 天之御中主アメノミナカヌシとハ稱奉オウマツりしむさへハ此
 大神の大御名オホミナのこゝを按奉オモヒマツるハ惶カシれと
 ルアメと云アカリモチと申言の約め御ハ
 マヒの約めありナカのナカニ又子ノ同
 音ネありハ瓊ユメ戈ホコの又マ同トナカノカカ在アリ所カ
 住スミ所カの力チカラあり又マシノ又マクモリトハ此又マシリ
 事コトありハ瓊ユメシリの又マ省シきコる言コトありて
 明持アカリの持モチ靈レイ所カ瓊ユメシリと稱オウマツへ奉マツりし御名オホミナを

りさぎを天之御中主オホミナといふ神號カミナリハ此コノイキ
 モチの御功德ミコトクを褒奉オウマツりし謂イハゆる尊稱オウマツハ
 て此神の大元オホモトの大御名オホミナハた、イキモチと
 そ稱奉オウマツりしふらむさへ氣イキを此神の御心ミココロ
 ましくむさへハ所謂イハユル天地四方所アメノチノヨリノとて此神
 の御意ミコトノココロの御座オハシ在マシたるハあらざるあり然シカレ
 世ヨの顯物アハレモノを悉コトク天造アマツカミの物モノのさう人造ヒトツクの物モノ
 といふと此大神の大御意オホミコトノココロハ洩モルる事コトあり
 春ハルを其氣霞イキカスミの約イキスミめと立タチ登ノボり花ハナハ木キ上ウヘハ

咲サキまマちチ鳥トリをヲ枝エ上ウエにニ嘯セウりリ夏ナツをヲ岩イワ間マにニ清シメ水ツリセ
 約ミツめメのノふフのノ道ミチ行ユク路ヲをヲ青アヲ葉ハ繁シゲりリ覆オホひヒ樹ツ下モトにニ
 薫カホれレるル花ハナさサまマてテ夜ヨル鳴ナド鳥トリありリ螢ホタルありリ秋アキハハ其ソノ
 氣イキ霧キリのノ約イキめメりリとトふフりリ廣ヒロ野ノハハ艸クサ花ハナ薫カホりリみミちチ
 虫ムシをヲ草クサ中ナカにニ音ネをヲ鳴ナドきキ冬フユのノ風フウのノ音ネ高タカくク木キ葉ハ
 地チにニ落オチちチ或シモをヲ霜フキ置ツキ雪ユキ降フりリ四シ季キのノなナかカめメかカ
 をヲりリあアまマりリてテ藥クスリ品リ食クヒ料リョウなナとトハハ月ツキハハ日ヒにニ生ナひヒ
 そソをヲりリ色イロをヲ目メをヲよヨめメこコをヲ心ココロ臟ヲ保ホくクをヲ補ホふフ
 以モ香カをヲ鼻ハナにニ入イてテ肺ハハ臟ヲ志シをヲ潤ウルしシ飲イン食シヨクのノこコをヲ補ホふフ

のノ口クチにニ入イてテ胃イ臟ヲ以モ養ヤシひヒ供イタへヘ助タけケてテ筋スナハ
 骨ホネ皮カ肉ニクをヲ堅カタくク自ツ然ズとト奇ク方ハシをヲ授タけケたタまマひヒ
 りリれレ一ヒト息イ呼フ吸クのノ間マにニ此コノ大オホ神カミのノ御ミコト意イハハ
 るル事コトふフたタとト一ヒト人ヒトのノ心ココロにニ惡アクをヲおオもモ一ヒト
 るル其ソノ惡アク忽タチ神カミにニ通トじジ其ソノ罪ツミ忽タチあアらラをヲれレぬヌるルもモ
 世セハハ悉シツくク此コノ大オホ神カミのノこコいイきキのノうウちチにニあアらラはハ
 ありリ

二ニ日ヒ也ヤ者ハ譬タト諸コレラ彼カノ葦アシ牙カヒ之ノ升ノボ而リテ刺ス空カラ故レ名ナ
 為ス上ウツ國クニ月ツキ也ヤ者ハ譬タト諸コレラ彼カノ葦アシ根ネ之ノ降オ而リテ入イ

王故名為下國獨至地也則能當其株

幹故名為中國

上件カミノクダリふいしるがごと天地初發の時より出

しませるイキモチの御名を後小天之御中

主とハ稱奉りたるさてハ此イキモチの氣

小よりて高御産巢日神産巢日神ヒノカミ

と香ふ巢カミ意ハ大素カミなみ此氣の為巢カミハ

彼西ふ巢カミ意ハ大素カミなみ此氣の為巢カミハ

重棚カミふ巢カミ意ハ大素カミなみ此氣の為巢カミハ

スキハスルスマスアホトイハフスル
 シ御意ハふそハ此ハ日の氣を賜ふは夕マ此御神
 の大御力ハ小ヨリ國クムスフの約め雅ハカク
 如カ浮脂ハ而久羅下那洲多陀用幣流の時ハ如カ筆
 牙カ萌騰ハその物ハなりて成りたる神の御名を
 宇麻志カ葦牙彦カ遊神カ天之常立神云云さて此神
 の御名を考ふるは産成カのウカス御瓊斯里騰
 世利氣靈神カよりて其くらげカあす多陀用幣流
 ものを此神の御力カにより天地カ二小分けた

まひはれは是陰陽の始マヒハレハ一して萬のものを産マヒハレハ
 成を御靈斯里ナリこととありふカミ華ハアカリセリの約カミ
 め牙ハ氣日ふりさてハ上條カミある産日神の日カミ
 の功德よりてモエアカル其アカリのセリカミ
 まで天地とハわられらる此神は繼て天之カミ
 常立神顯れたまひ俱は其アカリホつきて天カミ
 の底ソココソコソコのソを省きたるありをたちてカミ
 のタを約めたマの約めチをトホリカミのりを省カミ
 ホを約めたマの約めチをトホリカミのりを省カミ
 守りたまひ天の神とを成りたまひありカミ

アメトハアカリモチの約言かして以カミ
 濁あく清明アキラカあるをのハ悉くあつて總持カミ
 たまひ宇宙の人の所謂産巢日神の其日をカミ
 わけて賜ふ処あるか依て日の國とハ稱奉カミ
 りしあり日とて靈あり巢日カミの功徳カミ
 よりおりて温カミ天カミ下カミ萬の物とて此日カミ
 艸さハ其氣のそ職け與へたふき諸神のふカミ
 ちりてハ其氣のそ職け與へたふき諸神のふカミ
 もさハ其氣のそ職け與へたふき諸神のふカミ
 興つた火の神の萬の物とて此日カミ
 とつた火の神の萬の物とて此日カミ
 とつた火の神の萬の物とて此日カミ

評又人の善魂を常とゆきかよつるもの
 是を夢といふさまは祖と見え
 まいたくねて心よおさる祖と見え
 ろいとくして何とあはさる祖と見え
 むらんとくして何とあはさる祖と見え
 日のちとせたることふ此産巢たる事
 三 屬日者五神名謂別天神屬月者一神
 名謂國常立其餘九神又各有職名
 さて天地と別れられハ天の方ハ造化三
 神を始め宇麻志葦牙彦遲神天之常立神の
 五神立のほりたまひらるより是を別天

神とハ稱古事記ハ此五神ハ獨神成座云々
 おふ禍此天功徳小より國之常立神を始め豊
 天神の御功徳小より國之常立神を始め豊
 雲野神字比地適神次妹須比智通神次角杵
 神次妹活杵神次意富斗能地神次妹大斗乃
 辨神次游母陀琉神次妹阿夜訶志古泥神の
 十柱顯出たりひるる國之常立神地球
 のかた又屬て地の極底を守り萬の物を
 ミソ夕テ給ひ其外の九柱の神を畏ること

造化の神とありて上カミ件ツギある五柱天神の功
 徳をたす事たまひばるなりわりて申さむ
 の先豊雲野神を水氣を主宰たまひ雲野の
 クミクムと加よへり今も雨ふむとて八
 重雲の疑ヒはるまてり今も雨ふむとて八
 行ツ野ノ又マハシノの約ヨクめありといつる星の
 云ふ水星スイセイのハシノの約ヨクめありといつる星の
 主宰神の物みふのカク形カタをくみふた
 まふ功德をふし土星比ヒ地チ通ツウ神シン須ス比ヒ智チ通ツウ神シンハ

方たまひて人の子孕ハミきたるまね三月四月
 かあたりて守りたまふ神あり角杵神イサノ活イサノ杵ノ
 神を水星スイセイの入りたまひ物皆の活御靈イサノミタマを授ササ
 けたまひハミ孕ハミ女の五月六月を守りたまへる
 神あり意富斗イホト能地神ノチノカミ次ツギ妹イモ大斗オホト乃辨神ノハハカミ
 火ヒ星ホシの入りたまひありされハ地球チキウの大
 殿テン作ツクむとするの如く地形のありたる時
 ぶせハ孕ハミきたるもの、七月八月を守りた



神理圖解上

まひるる神也面是神惶根神の二神を金星
か入りたまひるるまより地球のおちて足
り氣シマリルるあり故は孕女より一ハ九
月より十月お至りすてまうまむとする時
を守りたまふ神ありされ人の一一生何事
の九柱の神の係りたまえぬハありさ
か如斯日思及五星をも別天神達の鑄造た
まひるるれともいまた地球を浮きたる油の
ことく多し用幣流の國おれ上の條の十

五神達伊弉諾神伊弉册神お修理國成と詔
ちやめて二神を天降して神教のまゝ、お國
を造りしめ男女交合の道を始めさせたま
ひりこゝ、お國之常立神を根國のあたよ
つきてとるおたまたまなり

雄神之統於日思名以為清明持神雌
神之入於月思名以為重濁持神

お上件、お別天神と申え日國お志つまりた
まひるるるるの爰、お國之常立神ハ中津國を鎮

め給ひ次の條ふる五柱神を各彼五の星の
別遊別天神の造化の御力を助奉り供よ天
神となりたまひたりさて中津國をいませ
如海月多陀用幣流の國な遊天神諸命以
て伊弉諾神伊弉册神の二柱は是の多陀用
幣流國を修理固成と詔ちたまひて天の沼
矛を賜ひ言依賜ひはれり二神天の浮橋の
上また其沼矛を指下して畫賜つぬ塩
許遠呂許遠呂の畫鳴り引上る時其矛の

未より垂落る鹽累積りて其多陀用幣流
の一の嶋とふる是を淤能基呂嶋マシマの
めといふ此所は天降給ひ吾大八島國を鑿
造玉ひ次々か百八十の嶋國の神を生成し
海山川と定めたまひぬされは我國を大
敬的の國とも稱し秀國親國とも申し天造
の事を千事百事吾國の始りたるのこり今
は正き御傳ありたりさて次々か水火木金
土は世界か謂ゆる五色人種の祖神ある

由里圖解上

十

へき八百萬物皆の主宰神を産み人の人を
 産む道も始めたまひ此大地を固めたまひ
 此水は又一の界此地球より分れる是を
 黄泉國とも根國とも底の國とも云ふ是今
 の月國にして天地五星八百萬の星との
 分れて後また地球も久く着きたるに依り
 ツキと云つる號ありり初國之常立神
 を國の底におえりなる此國の根と謂ひ
 底と云ふ所より分れる此界も着て鎮

り給ふさ水は二神也此中津國天上を地球
 を中國と云い月を止りたまひ天神の詔の
 まゝ又國を修理固め千萬の祖神を産ま
 まひ此水は爰に始て天地四方とあり日月
 星辰ハ重棚雲の座を定め天之久比奢母智
 神ハ大空の水を汲上げたまひ天之水分神
 を其水を大空に分ちたまひ國之久比奢母
 智神を地球の水を汲取り國之水分神を地
 球の水を分り一日一夜のひまもふく雨露

の恵を下りたまひ食物着物をも満足せし
給ひ人の人たる道を教つたまひ陰神伊弉
那美命を素佐鳴命禍津日神煩大人神を平
て黄泉國に入りたまひ大皇道こそむらる
蒼生ともを一日小千人絞殺したまひ日毎
か人の悪をとめ給ふのこゝ死にハ忽黄
泉の獄かつふるむとのりたまひ陽神伊弉
那岐命を天照大御神大直日神直日神を
率て日鬼を歸上り一日小千五百の産屋た

てさせ日毎か人の善を見せおそし御寶の
幸を授給ふのこゝ神の道を志り人の人た
る道をつとめし人をハ死するや以ふや忽御
もと小曳よせ給ひ子孫を守らせ給ふあり
その書紀の序に清陽者薄靡而為天重濁者
淹滯而為地と記されたるのこととく清明あ
るものハ悉く天に清登り重く濁るものハ
悉く黄泉に下りてめたまひけるをアノとい
ひヨミといふ神語に灼然と常住よ此大神

違日月の兩界の別水たまひて人の生死の
 ことも司りたまふありされハよ人の生
 る、時を必満潮時よして死る時を必干汐
 時ふりきて満潮ハ日の吸引カより干汐
 月月の吸引カよるといふ事ハ世の理學
 者もいふ所ふ水ハいもほこいた、深き神
 理ある事にして天造の神理おれ人の論
 ふつき事ハおちさ水とも吾心ヨコルレ
 ハ黄泉おちアカケレハ天上よ歸するハ

いと神カ命ハキキモウチと云あ言の約め
 むおキの命ハキキモウチと云あ言の約め
 熱氣をふりて音ハ此ノウチと云あ言の約め
 力セハキキモウチと云あ言の約め
 人違ハキキモウチと云あ言の約め
 息た天津日氣の身冷是を死るこそ生
 と云ふサササササササササササササササ
 云氣のさかまよヒルと云ふ言ハ是約め
 云ふのさかまよヒルと云ふ言ハ是約め

轉語の腐るといふ氣去りと云ふことの

五 大凡各國以日光遠近不均人妊胎亦

從而有遲速矣

世畧不在と顯る物の子を胎む事ハ伊邪那

岐神伊邪那美神妹脊二柱大神たちの始給

ひし道不して神世も今もかゝることおく

夫婦あたふひの枕の下お孕みとあること

ハ唐も印度も中垣の隔なく惟神傳り來て

生の子の八十連き子を親とあり親を祖父

とあり繼々お親を祖父の姿を受繼き子を

親の姿をうけつゝ孫曾孫と繼々生いて

けるを其大元の起原とさかのほれを其親

等の産出せしものゝお水と親の心と

て作り出せしお水あたは天津日國とま

まに氣持の御志あさおして造化の三神の

御恩頼より次の二神の御力を添給ひ五

星の主宰神たる十柱の神の御守を受得て

うま逃出たることおして即其稱をもヒト

といへりそをその日御國おましまし産巢
 日神の靈をもとめて賜りたるより人
 といひ又其魂といふも夕マハリシ日とい
 ふ言ありされ昔よりヒトといへるれヒ
 トマリの約めあるよー大人等も説きたま
 へりーりいさよあもかをることあーの英
 信ある遅至熟婦嬰新説日經至進早視乎國合
 土寒則遲至熟婦嬰新説日經至進早視乎國合
 歲經至者居多印度地熱十國一歲至者居多
 約以十者居為適中焉云々印度極之國人四時
 皆至寒有婦人二十歲至二日者四五歲始經行六
 皆至寒有婦人二十歲至二日者四五歲始經行六

十尚能生子者云々のつる窮理も神理あり
 度多考とねとのおのつる窮理も神理あり
 理より地球界のうちの地を隔て、女子
 の子を孕むに遅きあり速きあるハ何の爲
 あるるとおもふか彼ヒトといふ神理あり
 さるるもたるはは赤道の遠近によるあり
 熱國の女は十歳を始として經水たると寒國
 の女は二十歳より二十四五歳に至るとあり
 や我皇國の如く寒熱順和ある真秀國の
 地は生れし女は十三より十四五歳に至り

て經水たつなり此經水のたつ時ハ忽孕と
 ふるハいとむくすく造化の妙用あり若
 病ありて經水のたつさる人又ハ大陽の氣
 うすくして身ハ冷氣多き女ハ孕とあらず
 るなりされハよ此經水のたつをも日を見る
 と云ふ也此故なり又ハ女をヒメと云ふも
 ヒモチと云ふ言ハして天津御産巢日神よ
 リ賜リし其靈を腹の内ハモチルるハより
 ヒモチと云ふハモチの反三あるハカメ
 通ハしたるハアカ

リモチのモチも三ハ通えさて女の腹ハ卵
 してアメと云ふハ同し又男精ツ神遺方日ハ
 王ハ生遊あハらハ備り又男精ツ神遺方日ハ
 ツの轉子と云ふ事ありハ常ハありて交合
 する事ハ定めハれハ此日の精靈をうけ
 されハ孕とハあらずなり倭姫命教日神
 魂乃精靈父母乃氣ル入互生出云云されハ
 よ人ハ日の大神達の恩頼ハより孕とあり
 なるを十柱の大神の御守護ハより月の満
 ちるをこと十たひよして人となりあせ出

るをいともくすし其日の大神たちの大御
恩頼ふよこるあり

六 日月孫神降臨皇國首分幽顯持能護
保萬國

天照大御神の御孫天津日子蕃能邇々藝命
を天降し中國世の大王とさため吾瑞穗國
を食國とよさし代々の京都とさため顯露
事を志らしめ月讀大神の五世の御孫大國
主命をして出雲國ふる杵築の大神を宮所

とよさし中國の幽眞事を志らしめ常住の
神と君との御意めひの相ひたる大政事
奇日あやしき神理のふむこ日本書紀
の一書曰高皇產靈尊云云勅大己貴神云
夫汝所治顯露事宜是皇孫治之汝則可以治
幽神事又汝應住天日隅宮者云云大己貴神
報曰吾所治顯露者天孫當治吾將退治幽
神事云云と志るされたりも高御產巢日神
こ天照大御神八百萬神達を天安河原小集

一神議の議りたまひし神皇の神を敬
 一を國治り君を尊めし家齊の家を齊へ國
 を治給ふる神の大御心よそありし古事
 記の天照大御神御孫命の三種寶を授給ひ
 て詔りたまひし此鏡者專為我御魂而如
 拜我御前伊都岐奉云云と詔して天降し給
 ひしより今かかえり度なく代々の天皇神
 代よりたゞ一日の如く上は政官を置き
 府縣又令參事古國主中を置郡の大長郷の

小長村の補長を置き官國幣社府縣郷村社
 を齋まじ曲違ふ事なく顯露の政事給ひ
 惡きを罰め善きはめたまふ深き大御惠
 るそありし是も神の道を守らば破
 り背向ける人あらむ此世の神の御咎めを
 かゝふるのみ死す妖魔の群も落入り黄
 泉神も擒圍は長き苦をうけむことを悲
 きたまひ憐みたまひての故あり大己貴神
 の其のゆかりの神をいえまもさう上を

官國幣社より下る府縣鄉村社及攝社末社
お至るまで神役おたゝし給ひし神違を
て常住お天皇のこと取沼めたまはる顯露
を犯し志のひ陰せる罪とものおとむに
を忽見顯し給ひ大御世を安らるにせむと
ほりしたまひぬ君をまじ此神の虜となら
び事をかなしきたまひ常住お悪人を罰め
善人をほめたまはるなりき水をよ大地お
國てふ國を多る水と西より東より綱かけ

夷よするることより来て秀國親國を仕へ
まはる世の人てふ人の作り出せる萬の
器械ハさし法てふ法をありきぬのありの
悉積足えし雁歸を燕のよりくるること
四方の國より目さしより来て仕へまつる
も四方の國人の詣つるおあはれ吾國人の
招くおあはれ天神の神語おいさゝあはた
のふ事あり我國を豊明御靈の神と君との
御産まり神府國おれを四方より敬ひより

來て仕奉るべき神理あり言卷もかゝる
 水も二神の國産たまふ條に大日本於
 云云と志るさせ給ひし四方の國人と
 もり秀國親國といつきかゝつ寄來て
 仕奉るべき敬的國といふを省きたる語
 かりて聊も此神語あたふことあく今の
 現も自然と四方の國人とも彼八十綱を
 打掛て曳よめるること競寄來ておの志
 ことら悉捧奉るハ甚もおむかゝる事に

あむ

凡為善者其氣恒清々而不已升而配
 天為惡者其氣恒濁々而不已陷而入

泉

人の體カラダラカキの轉語ウタガハシラカキのアの省マ
 音ネタと同ハ父母の中ナカなりたりと雖も其
 元素モトを考るカ氣キカ依て其體カラダをあり體あり
 て其氣キ凝心コウシンとあるさハ體ありて心あり
 と云ふ事あり其心の本源モトを尋タズナフるハ彼日ヒ

在座産巢日神より賜り日ありはる是を
 號て魂たまひといふ此魂の色をあらはる是
 を二ニ光ヒと曰ひて産靈の靈ふとも又清明
 アともいふ此ア力のこよして濁ニリコリ赤色
 リたる轉語赤ホふきふそまざるを善ヨと
 いふ是人の本心モトココロにして天津神の守りたま
 ふ所ありさ水は是および其本心モトココロのアカ
 リをさりてよまぬたるを惡ヤといふさて
 此アシといふ事を天津神の惡ミニククなカ

ラスりの為給ふ所にして黄泉ヨモツの約め
 神のとかめたりカさせ給ふ所ありさ此
 よ其本心の善といふぬいある事をあは
 を云ふそな水たる、神カミ隨まなる人の道を守
 るを云ふなり人の道とハ神を敬ひ君をた
 ふとみ親トモお仕へ子を育ひ兄弟イテライの中よく夫
 婦睦ムスく朋友トモの交をむついともし世をたす
 けて國のため人の為ある事を常住ツネニの心
 としおの世の身をたし、み必ず濁ニリ水ミる心

おきを云ふ是は及して神をいやまをに君
 をおろそかのよし親のつゝのつら子を齎ふ道
 をうしあひ兄弟の中あしく夫の順を以て婦
 を愛せし朋友の中あしく常の争論の事の
 み好む盗掠る事をあし世の為人の為のさ
 またけをあして彼アカリをサリたる心を
 悪といふさハ此悪事を天神の惡きたま
 ふ所あまを黄泉神召捕たまひ彼獄のつあ
 きたまひりるおより其子孫遂に滅衰ふな

りそいたし死たる後のこよあらし日毎小
 日月の両界より大神達見そふをし悪きを
 懲りしカラの轉語の善を賞メお持の約めよして
 語ふ給ふ物あら世のため人のため小善事
 をふせぬ忍心浮立ていさみすむを彼日
 若轉語の宮おましくりる清明持神達のみ
 そなをしてほめたまふ是のむを
 て世のため人の為小悪事をふし時をいか
 ほと人のめを志ぬいかくして事を謀ると

も心縮ココロ之氣キかせセてテかカらラ物モノをかカふフりリ
 一ヒト如トシくク自然シズカ不フ足タラのノ重オモシくクふるルハハ是コトをヲ押オシえエふフ神カミ
 のノひヒ罰バツをヲ蒙モウりリふフたタきキ現アツ世セふフ幽ユ冥メイ天テン神カミ不フ咎トガめメらラ水ミヅ
 黄泉ヨミ神カミのノ擒トらラぬヌふフらラむム人ヒトのノ如トシ
 何ナニほトとト神カミふフいイのノるルとトいイ一ヒトもモさサらラ願ネガヒのノ
 志ココロるル一ヒトれレくク幸サイハシ必カナラ及キてテ禮レイとトなりナリ其ソノ身ミ不フ必カナラ過ス
 あるアルをヲ妖マカ魔マのノものモノに見ミ入イらラるル水ミヅをヲ飲ノドみミふフりリ惟タ
 のノ本ホ教キョウ人ヒトあアるルをヲ假カ令レイ一ヒトにニ外ガイ國クニのノ諸シヨ道ダウのノ妖マカ教キョウのノ迷マヤカシ
 ひヒつツ其ソノ身ミふフ災サイ難ナン出デ来キ人ヒトのノ上ウヘをヲ試シてテ志ココロるルふフりリ
 そソをヲ怨ウラミよヨくク指ササをヲ折ヤてテ衆シユ人ヒトのノ上ウヘをヲ試シてテ志ココロるルふフりリ

しシらラすス神カミをヲ敬オホふフのノ道ミチをヲ失ウシひヒ國クニをヲまマもモりリ君キミよヨ
 仕シらラすス神カミをヲ敬オホふフのノ道ミチをヲ失ウシひヒ國クニをヲまマもモりリ君キミよヨ
 ろロふフさサ水ミヅをヲふフりリ

本教神理圖解上終

天
地
人
道

